

## 福岡市美術館の事業について

### ○平成 27 年度の事業計画

#### (1) 展覧会の開催

##### ア. 特別企画展

##### (ア) アンコール・ワットへのみち 神々の彫像

展覧会期：平成 27 年 4 月 28 日（火）～6 月 14 日（日） 42 日間

出品点数：116 件

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館・TVQ 九州放送・西日本新聞社）

9～15 世紀にかけて現在のカンボジア領域を中心に強大な勢力を誇ったアンコール王朝は、世界遺産アンコール・ワットに代表される豪壮華麗なヒンドゥー教・仏教の石造美術を残した。本展は、8 世紀以前のプレ・アンコール時代からアンコール王朝の時代を網羅した丸彫り石像群を核として、インドシナ半島における豊かな宗教彫刻の造形美を紹介する。

##### (イ) 肉筆浮世絵の世界

展覧会期：平成 27 年 8 月 8 日（土）～9 月 20 日（日） 38 日間

出品点数：189 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館・TNC テレビ西日本・西日本新聞社）

浮世絵師の多くが、木版画である「錦絵」ばかりでなく筆で描いた「肉筆浮世絵」を制作したことは、あまり知られていない。本展では、鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎など 200 年にわたる浮世絵の歴史を代表する 67 人の浮世絵師たちによる作品と、浮世絵誕生前夜の無款の作品とを合わせて約 160 点の「肉筆浮世絵」を展示し、その魅力を総合的にご紹介する。また会場内に「春画展示室」を設け、浮世絵の重要な一部を成した春画の名品を展示（入場制限あり）。

##### (ウ) 藤田美術館の至宝 国宝 曜変天目茶碗と日本の美

展覧会期：平成 27 年 10 月 6 日（火）～11 月 23 日（月・祝） 43 日間

出品点数：124 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館・朝日新聞社・KBC 九州朝日放送）

日本屈指の東洋、日本美術のコレクションを誇る、藤田美術館（大阪市）の所蔵品から国宝 6 件と重文 25 件を含む 124 点を、九州初公開。藤田伝三郎は山口県出身で、奇兵隊で活躍。実業家となったのちは、美術品を精力的に収集し、海外流出をふせいだ。神秘の青い光をたたえた国宝「曜変天目茶碗」のほか、国宝「玄奘三蔵絵」など名品の数々を展示。

##### (エ) マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展

展覧会期：平成 27 年 12 月 22 日（火）～28 年 2 月 21 日（日） 52 日間

出品点数：約 90 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館・FBS 福岡放送・読売新聞社・マルモッタン・モネ美術館）

印象派の巨匠として、日本でも絶大な人気を誇るクロード・モネ（1840-1926）。本展はマルモッタン・モネ美術館所蔵作品の中から、最大の名作といわれる「印象、日

の出」(期間限定)をはじめとして、「サン・ラザール駅」「睡蓮」など約90点を公開。モネが最期まで手元に置いたプライベート・コレクションも今回展示され、まさにマルモッタン・モネ美術館にしか出来ない究極のモネ展となる。

## イ. 常設企画展

### (ア) 九州派展

展覧会期：平成27年10月28日(水)～28年1月17日(日)

会場：企画展示室・小作品室・日本画工芸室

まもなく結成から60年を迎えようとする福岡発／初の前衛美術グループ「九州派」。1950年代から60年代にかけて、大衆運動の盛り上がりを背景に、前衛美術を生活者の視点から捉え直そうとした、全国的に見てもまれなこのグループの活動とその作品を紹介。資料集の刊行も予定。

## ウ. 常設展

### (ア) 近現代美術展示室

近現代美術室は年に1回(6月8日～15日)展示替え、企画展示室・小作品室・日本画工芸室は1～2か月ごとに展示替えを予定。

- ・平成27年4月14日～6月7日 「集積 Accumulation」  
「西本コレクション展－畦地梅太郎と山男－」  
「和田三造展」
- ・平成27年6月16日～8月2日 「彫刻／人形」  
「新収蔵品展」  
「夏休みこども美術館2015」
- ・平成27年8月25日～10月25日 「中村研一展」  
「鬚嘔 虹のエロス」  
「吉田博展－画家・夫・父として－」
- ・平成28年1月19日～4月10日 「鉄の美術」  
「藤野一友展」
- ・平成28年1月19日～2月28日 「冬のおとなミュージアム  
秘密－かくす・のぞく・あばく」
- ・平成28年3月1日～4月10日 「日本画名品展」

### (イ) 古美術展示室

松永記念館室と古美術企画展示室は、1～2か月ごとに展示替えを予定。

- ・平成27年4月14日～6月7日 「インドネシアの染織  
－バティックの楽しみ」  
「春の名品展」
- ・平成27年6月16日～8月9日 「新収蔵品展」  
「大名の茶」
- ・平成27年6月16日～11月29日 「九州古陶の美・田中丸コレクション」
- ・平成27年8月11日～9月27日 「本多コレクション展」  
「仏と美」
- ・平成27年9月29日～11月29日 「七色の煌き－螺鈿」  
「秋の名品展」
- ・平成27年12月1日～1月31日 「仙厓展」  
「茶道具と包裂」

- ・平成 28 年 2 月 2 日～4 月 10 日 「美 Zoo 術館 アート×アニマル」  
「耳庵のつぶやき」

(ウ) 東光院仏教美術室

- ・平成 28 年 2 月 2 日 (火) ～4 月 10 日 (日) 涅槃図公開 (コーナー展示)

エ. 公募展

第 50 回福岡市美術展

展覧会期：平成 28 年 3 月 8 日 (火) ～3 月 21 日 (月)

(2) 教育普及事業

ア. 夏休み子ども美術館 (平成 27 年 6 月 16 日～8 月 31 日)

期間中子ども向けにコレクション作品を鑑賞する活動やワークショップ、図書の特集を予定。

イ. 美 Zoo 術館 アート×アニマル (平成 28 年 2 月 2 日～4 月 10 日)

動物をテーマに展覧会を開催するとともに、期間中、福岡市動物園と連携し、美術館と動物園を往来するワークショップなどを開催予定。

ウ. ファミリーDAY (平成 27 年 10 月 31 日～11 月 3 日)

親子を対象にふらりと立ち寄って参加できるワークショップを館内各所で同時に実施する予定。

エ. いきヨウヨウ講座 (平成 28 年 3 月頃)

60 歳以上を対象としたワークショップ講座。

オ. つきなみ講座 (毎月 1 回)

月 1 回土曜日に美術館職員が一般向けに自身の研究・展示・仕事内容等について話す。

カ. こどもアートアドベンチャー

年間を通じて希望する学校にスクールツアーなどのプログラムを実施。

(3) 読書室

展覧会の開催に合わせて、関係ある図書を集めた特集コーナーを設置予定。

また、平成 27 年度は、こども読書の日 (4 月 23 日) に合わせ、4 月 21 日～5 月 24 日まで、子ども向け図書の紹介もする予定。

(4) 美術館開館記念事業

ファミリーDAY (平成 27 年 10 月 31 日～11 月 3 日)

(5) 収蔵品の収集

美術品収集方針に基づき予算の枠内で収集予定。

(6) その他

ア. 福岡ミュージアムウィーク

平成 27 年 5 月 16 日 (土) ～24 日 (日) (9 日間)

博物館・美術館の役割を広く多くの方々に知っていただくために制定された「国際博物館の日」(5月18日)を記念して、福岡市内の博物館や美術館など12施設が連携し、様々なイベントを通して「出会いの場」、「知識の場」、「発見の場」である博物館・美術館をアピールする。

① 共通事業

(ア) 期間中のコレクション展観覧料・入館料無料(一部割引)

(イ) スタンプラリー

② 福岡市美術館事業

(ア) 講演会「大仏師 松本明慶が語る仏像彫刻」

日程：5月24日(日) 14:00～15:30

講師：松本明慶(仏師)

場所：講堂

内容：あまり語られることのない、作り手「仏師」の目から見た仏像彫刻について話す。

定員：240名(事前申込み、抽選)

(イ) ミニミニワークショップ

日程：5月19日(火)～22日(金) 10:30～14:30

場所：キッズコーナー

内容：大きなタネ型の箱から3つの素材をひいて、その素材で「森のなかま」を作成する。キッズコーナーをデザインしたオーギカナエさんが期間中の1日やって来る予定。

対象：未就学児童

定員：常時10名程度(入れ替わり制)

(ウ) つきなみ講座「アンコール時代の遺跡と美術」

日程：5月23日(土) 14:00～15:30

講師：後藤恒(当館学芸員)

場所：教養講座室

内容：特別企画展「アンコールワットへのみち」の担当として、その見所などを紹介する。

定員：50名(先着順)

(エ) 建築ツアー

日程：5月16日(土)、17日(日) 10:30～12:00

内容：1979年、前川國男によって設計され開館した福岡市美術館の建築を鑑賞する。普段見ることができない裏側も案内する。

定員：20名(先着順)

(オ) 福岡市美術館ハイライトツアー

日程：5月16日(土)～24日(日) ①11:00～②14:00～ 各40分程度

内容：ボランティアと一緒に当館のコレクションを見る入門編ツアー。

申込み：不要

イ. 福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館 冬のおとなミュージアム

「秘密ーかくす・のぞく・あばく」(平成28年1月19日～2月28日)

平成26年度に始まった3館連携企画。同じテーマで3館3様の展覧会を開催するほか、3館をめぐるツアーなども実施予定。

## 福岡アジア美術館の事業について

### 1 平成27年度の事業計画

#### (1) 展覧会の開催

##### ア 特別企画展

(ア) NTT西日本スペシャル おいでよ！絵本ミュージアム2015

展覧会期：平成27年7月24日（金）～8月20日（木）

運営方法：実行委員会設立（福岡アジア美術館、西日本新聞社、  
TNCテレビ西日本、NPO法人子ども文化コミュニティ）

子どもたちの感性や想像力・創造力をはぐくむために、五感に働きかける様々な仕掛けやオブジェ、絵本の世界観を感じることができる空間をプロデュースします。第9回目となる今回は「つながる・ひろがる」をメインテーマに、また「絵本でめぐる1年」をサブテーマにして季節感あふれる会場を作り、絵本約1000冊と原画を展示します。毎日ワークショップなどのイベントも開催します。

(イ) 日韓近代美術家のまなざし—『朝鮮』で描く

展覧会期：平成27年12月17日（木）～28年2月2日（火）

運営方法：実行委員会設立（福岡アジア美術館、読売新聞社、  
美術館連絡協議会、FBS 福岡放送）

20世紀前半の日本統治時代から戦後1960年代までの朝鮮半島の美術を、日韓の作家交流の観点から総合的に紹介します。韓国の作家と朝鮮半島に在住・旅行した日本人作家による絵画、工芸、彫刻、印刷物など約200点の中には、長年にわたる日韓の共同研究で発見された多数の新資料も含まれます。朝鮮半島の人物や風景や静物を表現したこれらの作品からは、さまざまな立場の人々の抱いた『朝鮮』イメージが浮かび上がってくるでしょう。

##### イ 常設企画展

イマジン—争いのない世界へ

展覧会期：平成27年6月11日（木）～9月1日（火）

太平洋戦争が終結して70年の節目を記念した企画。日本の戦争に関する作品から、20世紀のアジア各地でおこった独立戦争、民族・宗教・思想上の対立による内戦、そして今日も突発するテロなどについて、アーティストがどのような社会状況の中で、何を考えどう表現してきたかを紹介します。争いのない本当の「戦後」を、描かれた戦争や戦禍を通して想像（イマジン）してみてください。所蔵品を核に約30～50点を展示。

##### ウ コレクション展

アジア美術館が所蔵する作品を数ヶ月毎に展示替の予定。

(ア) うるわしきイスラーム・スタイル 平成27年3月26日（木）～5月26日（火）

(イ) 一粒の希望—土地は誰のもの？！ 平成27年9月3日（木）～12月15日（火）

(ウ) フシギ？の世界—ここではないどこかへ 平成27年9月3日（木）～12月15日（火）

(エ) 冬のおとなミュージアム

秘密—かくす・のぞく・あばく 平成27年12月17日（木）～4月5日（火）

(オ) 韓国アート再訪 1965-2014 平成27年12月17日（木）～4月5日（火）

## (2) 美術交流事業

### ア 美術作家招聘事業

アジア 17 カ国・地域から 51 人の応募があり、美術交流事業招聘者選考委員会においてアンジー・シェ（シンガポール）、ファンコグラフィック（モルディブ）、チュンリン・ジョレン・モク（中国・香港）、ジュジュ・ユ（韓国）が選考された。これら 4 人の美術作家を各 70 日間招聘し、市民共同制作やワークショップ等の美術交流事業を実施する。

### イ 研究者・学芸員等招聘事業

アジア 8 カ国・地域から 10 人の応募があり、美術交流事業招聘者選考委員会においてダイアナ・キャンベル・ベタンコート（アメリカ [インド在住]）が選考された。この研究者を 41 日間招聘し、研究活動を支援するとともに、美術講座やワークショップ等の美術交流事業を実施する。

### ウ 美術作家・研究者受入支援

助成等を受けて自費で福岡に滞在し、作品制作や調査・研究を行うことを希望するアジアの美術作家やアジア美術の研究者・学芸員に対して、制作・調査活動を支援する。

## (3) 収蔵品の収集について

平成27年度購入予定

ラティーシュT.「階段の途中」（絵画）など 10点

[参考]

平成26年度 購入 17点

寄贈 10点

## (4) 所蔵品の長期貸出

シンガポール国立ギャラリー（2015年10月開館予定）と当館の覚書に基づき、アジア美術館所蔵品35点を2015年5月～2017年11月、1点を2015年5月～2016年11月まで、同ギャラリーに貸し出す。

## (5) その他

福岡ミュージアムウィーク

平成 27 年 5 月 16 日（土）～5 月 24 日（日）9 日間

博物館・美術館の役割を広く多くの方々に知っていただくために制定された「国際博物館の日」（5月18日）を記念して、福岡市内の博物館や美術館など12施設が連携し、様々なイベントを通して「出会いの場」、「知識の場」、「発見の場」である博物館・美術館をアピールする。

### ① 共通事業

(ア) 期間中の常設展観覧料・入館料無料（一部割引）

(イ) スタンプラリー

### ② 福岡アジア美術館事業

(ア) 大友良英トークショー

日程：5月23日（土）14:00～16:00

講師：大友良英（音楽家）

内容：音楽家の大友良英氏が、自身の音楽について、また近年行なっている「アンサンブルズ・アジア」プロジェクトなど、アジアでの活動について

て語る。

場所：あじびホール（8F）

定員：120名（事前申込み、先着順）

(イ) ギャラリーツアー

日時：5月18日(月)、19日(火)、21日(木)、22日(金) 14:00～14:40

内容：ボランティアが作品の解説・案内をおこなう。

定員：各回20名（当日先着順）

(ウ) バックヤードツアー

日時：5月17日(日)、24日(日) 13:00～14:00

内容：普段は見ることのできない福岡アジア美術館の裏側を学芸員が案内する。

定員：各回20名（当日先着順）

(エ) アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

日程：5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)

①11:30～12:00 ②13:00～13:30

内容：3～7歳程度の子どもを対象にした、ボランティアによるアジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ。

場所：キッズコーナー（7F）

定員：子どもと保護者 毎回10組（当日先着順）

(オ) 滞在作家によるトーク

日程：5月24日(日) 14:00～16:00

講師：アンジー・シェ（シンガポール）、ファンコグラフィック（モルディブ）

内容：招聘アーティストがこれまでの活動や福岡滞在中のプランを語る。

場所：あじびホール（8F）

定員：120名

(カ) FT5 プレイバック① ヤン・ヨンリァン《悪夢》上映会

日程：5月16日(土) 14:00～16:00

内容：ヤン・ヨンリァン（中国）がFT5の滞在制作作品として制作した映像作品《悪夢》を上映する。

場所：あじびホール（8F）

定員：120名

(キ) FT5 プレイバック② アニダ・ユー・アリ パフォーマンス記録展

日程：5月16日(土)～24日(日)

内容：アニダ・ユー・アリ（カンボジア）がFT5の滞在制作作品としておこなったパフォーマンスの記録映像と写真を展示する。

場所：彫刻ラウンジ（7F）

## 福岡市美術館リニューアル事業について

## 1 事業目的

福岡市美術館は昭和 54 年 11 月の開館から 35 年が経過し、施設・設備の老朽化、スペース不足、ユニバーサル化の遅れなど様々な問題を抱えている。本事業は、民間活力やノウハウを活用することで、大規模改修及びリニューアル後の維持管理・運営を効果的・効率的に実施するとともに、ソフト・ハードの両面においてさらなる魅力の向上を図ることを目的とする。

## 2 リニューアルの方針 「つなぐ、ひろがる美術館をめざして」

- ◇ すぐれた建築意匠を後世に継承
- ◇ 安全な収蔵環境、快適な展示環境の再生
- ◇ 市民の美術創造・発表・学習・交流機能の充足
- ◇ 利便機能の魅力向上
- ◇ 人々を誘う機能の強化

## 3 事業方式

事業方式：PFI※（RO※）方式

事業類型：サービス購入型、一部独立採算（レストラン等）

## 4 事業者の選定方式

総合評価一般競争入札

## 5 事業範囲

設計・建設業務	実施設計、改修工事（別紙 1・2）、工事監理など
開館準備業務	リニューアル広報、収蔵品等情報システム開発など
維持管理業務	建築物及び設備保守管理、清掃、警備など
運営業務	利用者対応、広報・集客、レストラン・カフェの運営など

## 6 事業スケジュール

26 年度	3 月 特定事業の選定、債務負担行為（議決）	
27 年度	4 月 入札公告 10 月 落札者の決定・公表 2 月 事業契約の締結	
28 年度	9 月 閉館	設計・建設期間 (事業契約締結日～平成 30 年 9 月)
29 年度		開館準備期間 (平成 28 年 9 月～供用開始日)
30 年度	10 月 美術館の引渡し 3 月 リニューアルオープン（供用開始）	
31 年度～		維持管理・運営期間 (供用開始日～平成 46 年 3 月 31 日)

※ PFI (Private Finance Initiative) …資金調達を民間が行い、「設計・建設・維持管理・運営」を民間に一括で委ねる方式。

※ RO (Rehabilitate Operate) …民間が施設を改修し、維持管理・運営を行う方式。



① 改修方針

- 我が国を代表する建築家である故・前川國男氏の建築意匠と美術館の建物自体を後世に継承し、市民の誇りとなる美術館として整備する
- 市民の貴重な財産である美術品の展示、保存などの基本機能向上、ユニバーサル化や環境負荷の軽減、親しみやすく快適な場を提供する
- 集客・交流拠点として魅力あふれる美術館へリニューアルするため、リニューアル後の美術館運営に効果的な施設・設備の改修を行う

② 配慮事項

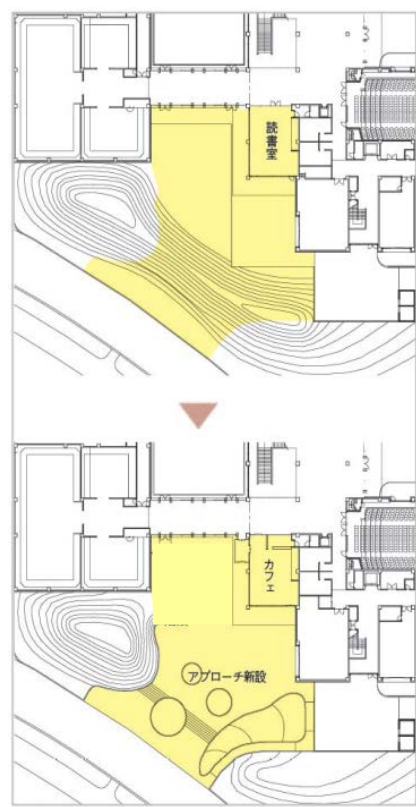
- 新アプローチやカフェ、レストランなどの整備における魅力向上への配慮
- 新アプローチ・カフェのデザインなどにおける公園全体に調和した景観への配慮
- エレベーターの拡幅、多目的トイレの新設などによるユニバーサルデザインへの配慮
- 設備機器の全面更新、LED照明器具の導入などにおける省エネルギー対策への配慮
- 館内で発生する騒音や振動への対策による、展示室などにおける静粛な室内環境への配慮
- 展示室や収蔵庫の改修による美術品保存環境改善への配慮

○施設改修等計画（1階）※主なもの

1) 収蔵庫の拡充・改修

**課題:「施設設備の老朽化による収蔵機能の低下」「収蔵庫のスペース不足」**

- 空調設備更新、内装改修による機能回復
- 収蔵庫の拡充により適切なスペースを確保  
\*格納庫等（点線部分）を収蔵庫へ改修  
(H26年度完了予定)
- \*5室（約1,400㎡）⇒6室（約1,600㎡）

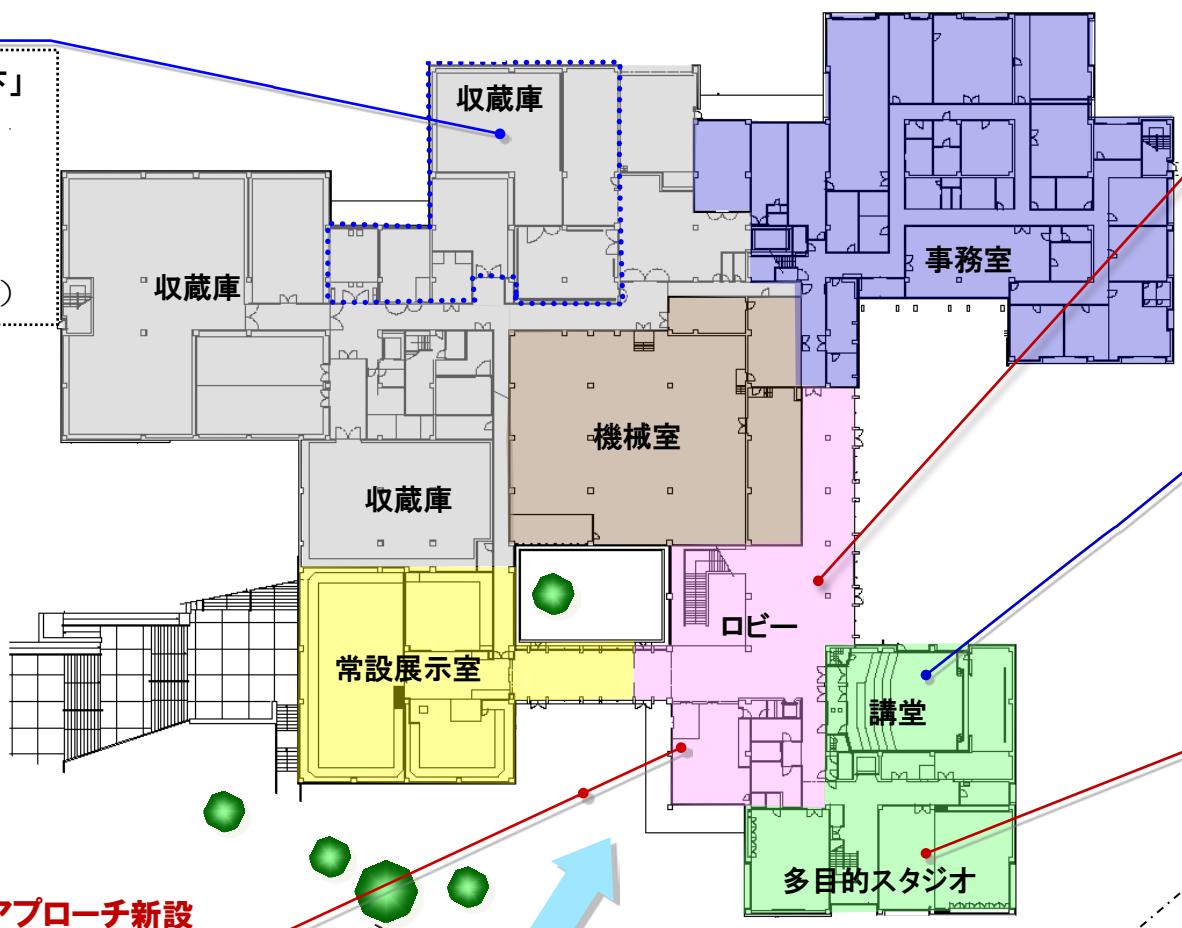


2) カフェ・アプローチ新設

**課題:「館内への誘導力の向上」「利便施設の魅力向上」「ユニバーサル化の推進」**

- 読書室をカフェに改修（約110㎡）
- 大濠公園園路からロビーとカフェへのアプローチ新設による誘導力強化

<カフェ・アプローチの新設>



大濠公園園路

3) ミュージアムショップ移設

**課題:「利便施設の魅力向上」**

- 1階ロビー階段吹抜け付近に魅力あるショップを新たに整備  
(現在2階にあるブックショップを移設)

4) 講堂改修

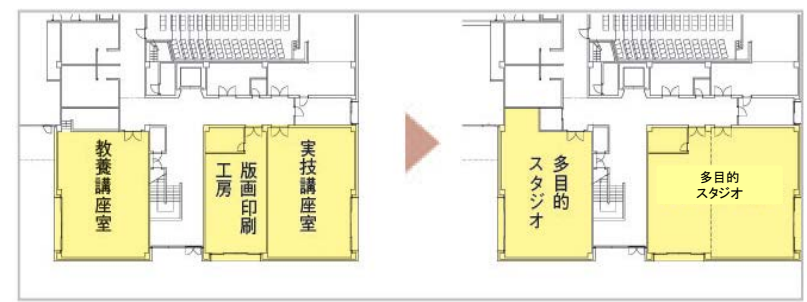
**課題:「多様な利用への対応」**

- 防音のための前室新設、座席レイアウト変更、音響機器の更新など
- 講演会のほか、上映会、演劇、コンサートなど多様な利用に対応（約210㎡）

5) 多目的スタジオ新設

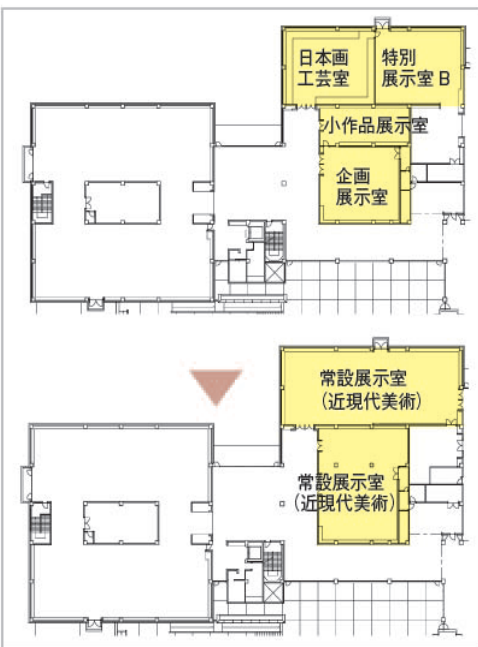
**課題:「様々な教育普及活動への対応」**

- 実技講座室外2室を多目的スタジオに改修
- 講義のほか、ワークショップ、パフォーマンス活動などに対応（約340㎡）



<多目的スタジオ新設>

○施設改修計画（2階）※主なもの



<展示室の間仕切り撤去>

1)常設展示室の拡充・改修

課題:「施設設備の老朽化による展示機能の低下」  
 「常設展示室のスペース・誘導力不足」  
 ○絵画だけでなく映像やインスタレーション(注)の展示に対応する常設展示室の整備  
 ○空調設備更新、LED照明器具の導入  
 ○特別展示室Bなどの間仕切り壁を撤去し、2階常設展示室の順路設定  
 ＊1,2階全体で7室(約2,000㎡)  
 ⇒6室(約2,200㎡)  
 ≪2階は近現代美術作品を展示≫

(注)インスタレーション  
 ⇒空間全体を作品として体験させる現代美術の表現方法

2)情報コーナー新設

課題:「情報提供機能の充実」  
 ○情報端末を設置し、所蔵品のデータベースや展覧会情報を提供する

3)レストラン改修

課題:「利便施設の魅力向上」  
 ○厨房機器や内装を改修し、レセプションにも対応可能なレストランに改修(約180㎡)

4)特別展示室改修

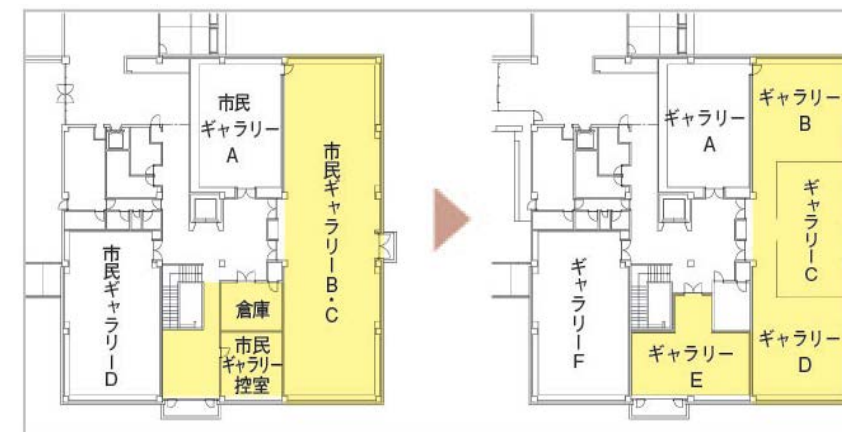
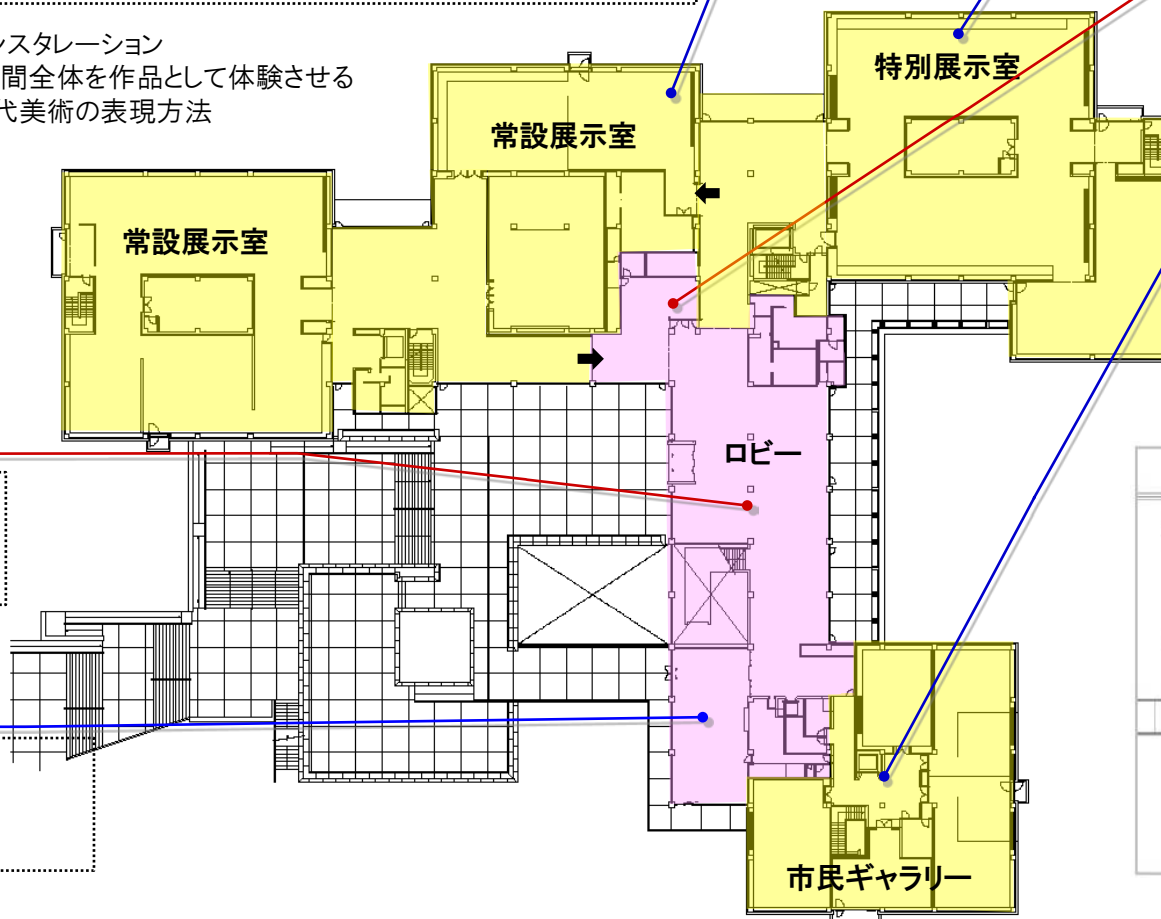
課題:「施設設備の老朽化による展示機能の低下」  
 ○空調設備の更新  
 ○LED照明器具の導入  
 ○可動展示壁の再編や展示ケース・内装を改修し、様々な特別企画展を開催(約1,300㎡)

5)キッズコーナー移設

課題:「利便施設の魅力向上」  
 ○現ブックショップの位置に、キッズコーナー及び授乳室を移設(約50㎡)

6)市民ギャラリーの拡充・改修

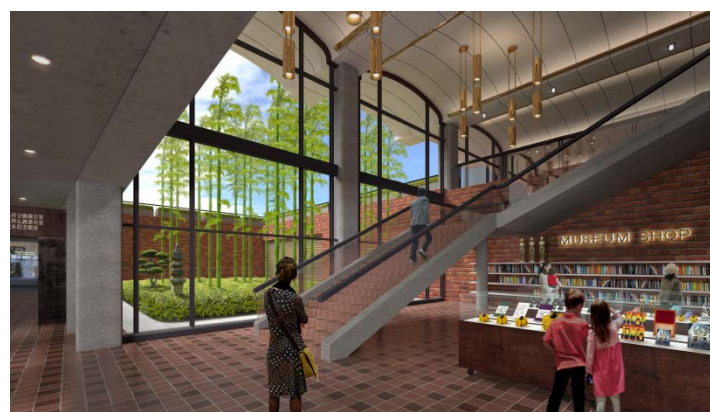
課題:「市民ギャラリーのスペース不足」  
 ○控室・ロビーをギャラリーに改修  
 ○可動間仕切り壁により最大6室まで利用可能とする  
 ＊4室(約610㎡)⇒6室(約710㎡)



<ギャラリーの拡充>



大濠公園園路からみた新設するカフェとアプローチのイメージ図



1階ロビーに新設するミュージアムショップのイメージ図



2階ロビーエントランスのイメージ図

※左記3点のイメージ図は、基本設計時に作成したものであり、PFI事業者の設計によりイメージ図と異なることがあります。